

1 はじめに

本校の特別活動における重点目標は、「①豊かな人間関係を基盤として、望ましい集団活動を育てる。②心身の調和のとれた発達と、主体的な活動を通して、ひとりひとりの個性の伸長を図る。③集団の一員としての自覚を深め、規律と責任をもって、自発的、自治的に活動できる児童を育てる。」の3つである。そこで、各種委員会の活動を児童主体となるよう支援し、昨年に引き続き、本校の特別活動における目標達成を図った。

2 資料

(1) 委員会活動

ア 図書委員会「読書わくわく週間」（図書委員会による読み聞かせ）

学校全体で読書活動の充実を図り、朝の活動時間を活用して1年生～4年生を対象に、図書委員会による読み聞かせを実施した。また、全学年を対象に記念図書館の方の読み聞かせを行った。

イ 運営委員会「ハッピースマイル大作戦」（人権集会）

人権、個性の大切さをもとに、各学級でスローガンを作成し発表した。運営委員会が中心となり、「いじめのない会瀬小にするために」をテーマに、事例の紹介やクイズを行い、全校児童の人権感覚を高めた。また、ハートの形の紙に、よりよい学級にするために自分ができていることを記入した「ハートカード」を学級ごとに作成し、掲示した。昨年度には、花びらの形の紙に、全校児童一人一人が思いを込めたメッセージを記入した「じんけんの木」を作成し、掲示した。

(2) 異学年交流

ア 縦割り班活動

- ・月に一度、縦割り班遊びを実施した。毎月、高学年を中心に遊びの内容を計画し、異学年同士の交流を深めた。
- ・学区内の会瀬海岸にて、浜遊び集会を実施した。縦割り班ごとに活動内容を計画し、地域の特色を生かした活動を通して、交流を深めた。



3 成果と課題

〈成果〉 児童主体の企画・運営を充実させたことで、児童は生き生きと活動ができた。また、ひとりひとりの集団所属意識が高まり、よりよい人間関係の育成につながった。

〈課題〉 来年度以降、児童数の減少にともない、学級数も減少する。異学年交流の場を多く設定し、児童主体の活動の場を広げていく。